

---

**鈴木**

絆創膏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鈴木

### 【コード】

N8875G

### 【作者名】

絆創膏

### 【あらすじ】

鈴木は悩んでいる。が何に悩んでいるのかこの物語は鈴木とその部下との葛藤から始まる。

## (前書き)

んー現時点では。あんまり言うことがないと思います。何か伝えたいなど。それだけです。

まあ、こういうのもファンフィクションなのかもしれません。

「今年も四月がやって来た。当然の事だが、一年四月がなくなると一年中楽な気がする」

痛みが来る。胃のやつだ。こいつはいつでも正直だ。

医学的にはわかっていても結局痛いものは痛い

結果、何時何分に起こるかまではわからない。しかし、痛み出したとき初めてわかる。

その時、初めて4月を実感する。

春はいい。桜が好きな私は生粋の日本人だ。3月のうちは酒が飲める。

4月になると酒は飲めないのに医者に止められる。理由はそれとなくわかる

なにか音がする…多分ノックの音だ。

こついつ時に限ってと思うが当然ノックの音はなる

集中している私はこれがノックの音とわかっていても一度では返事はしない

馬鹿げているとどこかで感じている。今が一番しんどいのだ。一年で一番苦しんで

集中しているときに限って…と

二度目のノックで返事をして彼が入ってくるのはいつものことだ

『鈴木社長』

こう呼ばれても返事ができないときがある。

あまり鈴木という呼び方に慣れてないと思う

あだ名で呼ばれれば絶対に反応する。不自然だから。

周りはボケているとしか見ていないが、昔からこうなのだ

多分もう治ることはないだろう

『社長』

これでようやくわかる。

『どうかしたのかね？井の頭君』

こいつにだけは鈴木社長と呼んでほしくない。ずっと連れ添ってきた仲なのに

むしろ私の事を一番よく知っているのに何故理解できないのか。私から言わせればこうだ…お前がぼけたのだと

『君は覚えやすい苗字でいいね』

『私にとっては嫌味にしか聞こえません。私の苗字は自分は覚えていても、他人には覚えにくいんですよ』

『私にはそれが羨ましい。鈴木なんて苗字はたくさんいたんだよ。』

だから鈴木と言われても私の事なのか他の鈴木のことなのかかわからないんだよ』

『私に言われてもわかりません』

他人のプリンが羨ましいということがよくわかる

結局そのあたりは子供なのだ

『今年の新社員のことなのですが…』

嫌な事柄の時は彼からきりだす。こういうときだけ権力を使う私は

嫌な大人だ。

『何人だね』

途端、彼の顔が緩む

何かいい報告でもあるのだろうか。もしそうならば今年は楽しく過ごせそうだ

『17人です』

ため息が出た。心の底からの素直なため息だ。

『なんで顔が緩む？そのどこがいい報告だ？』

嫌味と決め付けた私は率直に聞く

『去年は16人です』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8875g/>

---

鈴木

2010年12月10日14時58分発行